

二 部 地 区 活 性 化 だ よ り

野上川の風

発 行
二部地区活性化推進機構

編 集
総 務 部 会

事 務 局

T689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二 部 公 民 館 内
TEL・FAX 0859-62-7159



●たたらまつり特別展(衣類の移りかわり)
平成18年2月18日～20日



二部谷の写真コンテスト

温故知新

歲月は流れ 歴史は移る

その流れで 文化も変わる

生まれる文化 減(へ)る文化

それを後世に伝えるには

その時代の 人びとの

なにかの 手助けが必要

伝統の 和服文化を

懐(な)く たたら祭りにみる

洋装に押された 着物が

筆箱の底で いま余命を嘆(なげ)く

今のうちに 和服文化の見直しや

再生方法を 考えてみよう

たぐえ 懐古趣味と言われても

標題は「論語」から「故きを温(ぬ)ねて新(あた)しき知る」と読む。昔のものを研究吟味して、そこから新しい知識や道理を見つけること。(広辞苑)

平成十九年度から、すべての農業者が一律に支援を受けられていた政策が認定農業者や集落営農等への支援を重点とした担い手中心の政策に大きく変わります。

どうしていきまさらと思いますが、第一に農業人口が減少し高齢化が進行している。第二に国（県・市町村）にお金がなくなった。第三に国際的な動きがあげられます。

以上のような観点から思い切った農政を転換し、やる気と能力のある農家に集中投資し、十年後をめどに安定した農家を育て農地の大半を担ってもらう政策です。

しかし、担い手だけで農業・農村が守れないことは言うまでもないことです。兼業農業者の理解をどう得ていくかが問題であり又農山村の過疎化対策も問題になります。

そこで、担い手の一形態として小規模農家も参加できる集落ぐるみで農業をする集落営農が

必要になります。

それは機械の効率利用・農地集積によるコストダウン・耕作放棄地の解消につながります。

又集落営農は集落の中で役割分担が出来、若い人はオペレーターになり、会社員などの兼業農家には経理担当・お年よりは水回りの管理や野菜づくりと農産加工など可能性を秘めています。

来年から始まる新農政

新しい経営安定対策

J A日野伯耆営農センター長 中林 正

しかし、リーダーがいなくなると、おしまいになりがちであり、それぞれの条件でよく話し合い長続きする組織を作らなければなりません。

今後集落内で農業が維持されていくか考え、集落営農の必要性を考え、集落に合った組織にみんなで取り組むことが大切です。営農センターは、行政と

一体となり農業と地域を元気にするよう全力でお手伝いいたします。

集落営農のすすめ

1 必要性を考える

※集落営農の目的

①転作を有利に進めるため。

3 四つのポイント

①これから集落内で耕作されない農地が出てきたらどうするか。

②今、他の人に委託している農作業はこれからも受託してもらえるか。

③今、あたらしい農機具もいつかは買い替えるが必要となる。

そのとき、みんなが個々に買い換えるか。
④これからの、担い手をどうするか。

②機械貧乏を防ぎ、生産コストを抑えるため。

2 これからも集落の農業が維持できるか

※なぜ集落営農が必要かはつきり説明

①集落で作られている米の価格の年々降下。

4 集落に合った先進地の視察を

①タイムリーな視察でみんなが理解できるようにする。
②今後の方向を年度ごとに具体化する。

県外視察報告

あぜ草刈りの省力化を学ぶ

産業部会長

藤田 常雄

畦畔の被覆植物について

十一月十四日、近畿中国四国農業研究センター（福山市）に於いて畦畔の被覆植物（グラウンドカバープランツ）について視察研修をおこなった。その概要を報告します。

近年農村の高齢化が急速に進み、畦畔管理の中での草刈作業が次第に困難になり一部には耕作放棄地も発生して来ている。この草刈作業の軽減の方法として①除草剤の使用②抑草剤の使用③自走型草刈機の導入④土壌モルタル・土壌硬化剤の使用⑤防草シートの使用⑥矮性の被覆植物の活用等が考えられています。生物環境の確保、経費面から被覆植物についての関心が高まっております。全面を覆う様になれば草刈は年一回程度でよい。

被覆植物としての条件は次の事が考えられます。

- ①多年草で草丈が短い。三十cm以下
- ②初期生育が早く旺盛で地表を密に覆う。
- ③環境耐性（耐寒、耐暑、耐乾等）に優れている。
- ④根系の発達に優れている（崩壊防止）
- ⑤管理に手間がかからない。
- ⑥歩行の障害にならない（すべりにくい）。
- ⑦景観が良い。

⑧病害虫被害を受けにくい。水稻病害虫の発生源にならない。

⑨入手、増殖が容易。

⑩雑草化しない。水田に入らない。

⑪天端（畦の上）に植えるものは踏圧に耐え、すべりにくい。

草種については以上の事を基本に次のものが検討されている。

センチピードグラス、ヒメイワダレソウ、日本芝、ツルマンネングサ等々。現在各地で取り上げられているものにセンチピードグラスがあるのでこの草について少し詳しく述べる。

センチピードグラス

東南アジア原産で和名をムカデシバと言われ、草丈は十～二十cmで耐乾、耐寒、耐雪、耐病性に加え分枝、発根により土面を覆い分厚い布団の様なになり他の雑草種子を発芽させない草です。既成畦畔では播種、移植三週間位前に除草剤（グリホサート剤）で雑草を枯らしておく。

播種法

発芽には時間がかかる。一～二週間、気温が低いと一ヶ月程度もかかる。播種は五～六月頃。量は三～五g/m²。種子代は二〇〇〇～一五〇〇〇円/kg播き方は

- ①種子の吹き付け方法
種子をパルプ等と混和し機械での吹

き付け、又はひしゃく、バケツで散布する。これは省力的で広い面積に向くが発芽が悪く生育するまでに表土が流亡する恐れがある。又地表に出た種子はアリの被害を受けやすい。

②条播き法

等高線状に溝を掘りそこに種子を播いて浅く覆土し、足で踏んでおく。種子は少なくてすむ。十a当り一～三kg。初年度は秋までに三～四回の草刈が必要。

苗の移植による方法

播種法より労力がかかるが失敗少なく、早く畦畔を覆う。移植直後は乾燥に弱く、乾く様なら灌水をする。

①セル苗移植法

セル苗を二十～三十cm間隔に移植する。移植当年は雑草に覆われるので三～四回草刈をする。

②マット苗移植法

水稻用の育苗箱で育苗し0.5～1m間隔に張り付ける。移植後の生育はよいが大量の苗がいる。

管理面での注意

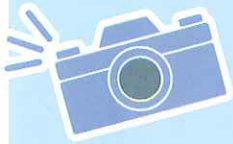
- ①初期生育は緩慢であるが一㎡あたり十株以上あれば一年生雑草の所では二年目には優先してくる。
- ②火入れは行はない。
- ③除草剤に弱い。
- ④低刈しない。
- ⑤他の雑草に長く覆われる



と枯死するので、雑草は刈る。

⑥稲へのカメムシ被害は特に問題ない。経費については、千葉県山武農業改良普及センターによると一㎡当りバラ播きで一～五円、すじ播きで一～六円、セル苗植付けで一三〇円（いずれも労賃を含み、当初の除草剤散布は含まない）となっている。尚資材代のみでは六十～七十一円となっている。

労力、資材費を要するので年次計画での改植が良いのではないだろうか。産業部会では平成十八年度に展示圃を設置致しますので勉強しながら取り組んで見てください。



第二回 二部地区活性化だより

今年度の応募は九名から二四点が出展され、審査の結果次の通り入選作を決定して、たたらまつりに展示しました。

なお来年度も継続実施しますので、多数参加下さい。課題はこれまで通り「二部谷の四季」ですが、住民の姿や農林業など仕事風景を期待します。

最優秀賞 野上川の朝もや

福島 中田 寿国

優秀賞 谷間の生きもの

福岡 加藤 正純

同 池田屋敷の桜

溝口 西村 亢宏

同 わた帽子

福岡 杉原千鶴子

入選 大山遠望

福岡 藤田 常雄

同 穫入れのよろこび

福岡 安達 良文

直売用の山菜をつくらう!!

先程公民館で地産地消の研修会を開催し、四十人の農家が熱心に勉強しました。講師はJ A アスパルの近藤店長と普及所の木村普及員でした。

店長からは直売所の「売れすじ」や生産者の心遣いを詳しく伺いました。木村普及員からは期待される山菜にしばった栽培概要を聞きました。

この研修会の結論として、山取りでない栽培による山菜出荷を行うため、「山菜研究会」を発足させることを決めました。出来ることから実



コシアブラ

践して地域特産に育てようではありませんか。

加入希望者は、四月上旬までに事務局の二部公民館（六二一七一五九）まで申し込み下さい。

野上川ヨシ刈り ボランティア経費精算書

○作業日程

(実施面積 11,500㎡)

刈り払い

平成17年8月28日 (参加者45名)

集草作業

平成17年9月4日 (参加者32名)

○収 支

収入合計	440,000円
支出合計	440,000円
差し引き	0円
(収入内訳)	
県助成金	440,000円
(支出内訳)	
弁当代	92,000円
保険料	1,512円
事務費	15,988円
人夫賃	330,500円 (77名分)
(刈払)	45人×4,500円=202,500円
(集草)	32人×4,000円=128,000円
合 計	440,000円

活動日誌メモ

(月日) (内 容)

平成十八年

一〇、二六 産業部会 (県外視察について)

一一、二七 環境部会 (景観植樹支援について)

一四 近畿中国四国農業研究センター視察

畦畔管理技術について

二二、一四 二二名参加 (福山市)

道路・河川・斉清掃二六四名参加

芝生造成研修

二七、二七 (藤田部会長参加 米子市)

たたらまつり実行委員三回

一、三〇 産業部会

(地産地消・直売所対策について)

二、一八、二〇 第二回たたらまつり協賛

第二回フォトコンテスト展示

(二部谷の四季)

三、三 地産地消の直売所戦略研修会

(講師アスパル店長、普及員

四〇名参加)

四、二 たたらまつり反省会

(第四回実行委)

一〇 総務部会 (会報発行について)

一四 スポーツ部会

(ウォーキングについて)

四、二 間地峡テレビ塔ウォーキング

(予定)

あどがき

今年の冬は、近年にない寒波と大雪で、各地で雪の被害が出ました。ようやく春の気配が感じられるようになって来ました。二部公民館の「たたらまつり」も今年も盛大に開催されました。二部地区活性化のイベントとして地区外からも多数の見学をいただきました。今後も長く続けたいものです。